

口丹 随想

南丹市八木町西部に位置する旧吉富小学校。1873(明治6)年に「明遠小学校」として開校した歴史ある学校でしたが、市が進めた小学校統廃合により、2015年3月に閉校しました。校舎は「吉富の庄」と名称を変え、住民の交流拠点として使われています。昨年4月に施行された市条例で、閉校施設は「南丹地域活性化センター」と称するようになり、旧吉富小は「南丹市吉富地域活性化センター」という行政上の名称を別に持つことになりました。

廃校舎を地域力育成拠点に

なものでした。13年4月の第1回八木町西地区区長会で、当時の吉富小PTAの役員から「小学校閉校の議論に区長会も関わっていただきたい」と提案されました。市との協議期間は2カ月しかありません。議論を重ね、再編の延期▽住民の十分な理解と同意―などを



吉富ノ庄運営委員会会長

ひろせ
みつのる
廣瀬 稔

から、同年9月に吉富小学校施設利活用検討委員会、14年4月には同利活用開設準備委員会を立ち上げ、15年4月には吉富ノ庄運営委員会を設立、交流施設やベテランチャーター起業のオフィス、喫茶店、学習塾などを設ける構想をまとめました。しかし、敷地は用途が厳切れても次世代につなげて

求める要望書を提出し、公聴会でも再考を訴えました。市の方針通り、市議会で可決され、閉校が決まりました。ここまでの道のりは大変

求める要望書を提出し、公聴会でも再考を訴えました。市の方針通り、市議会で可決され、閉校が決まりました。ここまでの道のりは大変

いくゆるよう、店舗やサテライトオフィスなど、テナント募集の呼び掛けも地域内外を問わず積極的に行っています。現在は、地元青年によ

る数学塾や大学発のベンチャービジネスが入居しています。市商工会とも連携し、環境マネジメント取得企業のセミナーや、南丹地区のカイゼン道場の発表会会場など、地元中小企業の活性化にも取り組んでいます。小学校の廃校は、崩壊していく地方の姿の象徴的課題です。地元人間が真剣に家族や家系、自治組織などについて、いや応なく考えさせられる問題でもあります。誰もが「任んでよかった」と思える温かい絆のある地域づくり、都会や近隣の市に住む若者が帰ろうと考える「庄(むら)」「づくりに頑張っていきたい」と

1943年、京都市生まれ。関西大工学部卒。電子部品会社を定年退職後、中小企業の経営コンサル会社を亀岡市で起業。2013年4月から14年3月まで南広瀬区長兼西地区区長会副会長。南丹市八木町南広瀬在住。